



楡紅葉 (はぜもみじ)

発行：令和6年7月19日（金）（文責） 校長 田中 克三



※学校ホームページでもご覧になれます。QRコードはこちら→

ビリョクだけどもリョクじゃない

R6.7.2 中原中「平和の日」&平和集会

戦後79年。今年も平和の尊さと命の大切さを感じる夏がやってきました。中原中学校では、毎年、この時期に平和集会を実施し、戦争の悲惨さや平和について考える機会を設けてきました。今年の実行委員が考えた企画は次のとおり。

- ◎ 平和集会のある日（今年度は7月2日：火）を「中原中 平和の日」と位置づける
- 世界平和のための募金活動を平和集会前の一週間（6月27日～7月1日）実施する
- 7月2日はアンケートで決めた「中原中平和の色」のシャツや小物を身に付けて平和を意識して過ごす
- 平和集会は3部構成（高校生平和大使の講話、平和をテーマにしたピアノ演奏、読み聞かせ）で行う

中でも、高校生平和大使の倉田律さん（致遠館高3年）の講演では、平和活動に関心をもったきっかけや国連欧州本部を訪れた際の活動の様子などを紹介していただきました。倉田さんとほぼ同世代の生徒たちにとって、「若い世代の積極的な活動が平和の実現には必要」と熱意を込めて語られた倉田さんの言葉は印象深く心に響いたようでした。



「関心」→「知る」→「行動する」

【平和大使の講話に耳を傾ける生徒】



『ケセラセラ』♪音楽を勇気に変えて♪

【今年も平野さんが平和をテーマに演奏】



【大人になれなかった弟たちに】

【楠田さんによる読み聞かせ】

***** 【生徒の感想から（感じたこと・考えたこと）】 ※抜粋 *****

倉田さんの「ビリョクだけどもリョクじゃない」という言葉がとても心に響いた。私はどうせ行動しても目を向けてもらえないだろうと諦めてしまうことが何度もあった。だけどもリョクじゃないと同じ学生目線で語っていただいたことで、とても自信がたった。

「平和」とみんなが言えるような世の中にするためには、私のちょっとした積み重ねが周りの人に影響を与え、広がっていくようなサイクルを作っていくことが必要になってくると思った。戦争で命を落とした人の分まで強くたくましく自分を信じて進んでいきたい。

読み聞かせていつも見る楠田さんの明るい姿ではなく、戦争についての話に悲しむ姿に心を打たれた。私たちは戦争を実際に見て体験したことはない。でも、語り継ぐこと、正しく恐れること、平和について考えることはできる。二度と繰り返さぬように。

倉田さんの話から「関心→知る→行動する」が大事で、それは私たち中学生にもできるということが分かった。戦争の話が頭にあるが、まずは目の前のこととして当たり前のことをしっかりする。言葉遣い、行動を見直したい。今日あったことを親に話し、寝る前に自分の行動を見つめ直したい。

平野さんの演奏で、とても好きな曲が流れて、自分も何か苦しいことがあったら「なるようになる」と思って頑張ってきたので当てはまると思った。直接戦争に関係なくとも、苦しんでいる人を慰め、元気になる曲が80年近くたった現代に新しくできてるのは素晴らしいことだと私は思う。

倉田さんの話から自分の意見をもつことや人と対話することの大切さに気付くことができた。実行委員が募金活動をしたり、「平和の色」を決めて平和について考える日を作ったり、見えない所で沢山活動していた。私もこれからもっといろいろなことに興味をもち、平和について考えていきたい。

未来のまちづくりに関心を

～7/9 中学生と議員の意見交換会～

7月9日(火)、3年生を対象に「中学生と町会議員の意見交換会」が開催され、現職の町議会議員の方6名に本校を訪れていただきました。

この意見交換会は、みやき町の子どもたちが、町の仕事や議員活動等について町議会議員に直接質問し話を聞くことにより、町政への関心を高めてもらい、まちづくりに進んで参加する意欲を高めてもらうことを目的として今年度より導入されたものです。



当日は、6名の議員が3名ずつ2クラスに分かれ、実際の議会の様子や議員の仕事内容などを説明していただきました。後半には「質問Time」もあり、生徒からは「議員報酬はいくらですか」「少子化対策としてどんなことをされていますか」などの質問が出ていました。



中学生にとって普段あまり接することのない議員の方々から直接お話しいただいたり、質問に答えたりしていただいたことで、自分の住んでいる町の政治について身近に感じ、満18歳での選挙権取得に向け、主権者教育の足がかりとなる貴重な機会となりました。

6名の議員の皆様、ありがとうございました。



生徒の学びに向かう力を育成

～7/11 町教委学校訪問～

7月11日(木)、一木教育長様をはじめ、みやき町教育委員会と東部教育事務所の方々が本校を訪れ、生徒の授業における学習の様子や施設・設備等教育環境の状況について視察されました。

本校における今年度の授業実践のテーマは、「自ら学びに向かう生徒の育成」です。



- 【課題発見・情報収集】【問題解決】【振り返り】の3つの授業プロセスを大切に、その中で、生徒の
- ・「何が問題かな」「どうすれば解決できる?」
と課題意識やねらいをもち、学び方を工夫する姿
 - ・「なぜ?」「知りたい」「わかると楽しい!」
と学ぶことに面白さや楽しさを感じている姿
 - ・「今日は必ず」「難しいけど、やればできるはず…」
と粘り強く挑戦する姿
 - ・「〇〇さんの考え方を参考にして…」
「みんなで考えればきっと…」
と多様性や考えの違いを尊重し、互いのよさを認め、協働する姿



がたくさん見られるように工夫して授業実践を行うように心がけていますが、そのことが実行できているか、効果を発揮しているか、確認していただきました。



いただいた御意見としては、以下のようなものがありました。今後の糧としたいと思います。

- 電子黒板やラミネート掲示を活用して生徒に見通しをもたせている。
- 町内の学校をいくつか見たが、電子黒板やタブレットを最も活用している。
- 以前に比べて格段に落ち着いた。学びに向かっている。教師の日頃の関わりが大きいのでは…。
- ▲発表している生徒の声が小さい。自信がないのでは。
- ▲グループ活動が苦手な生徒への手立てを。
- ▲生徒が主体的な活動を見せたら、評価の声掛けを。
- ▲小学校で同様の内容を学習しているのに、なぜまた中学校で学ぶのか、学ぶよさを実感させる指導を。